

# 豊穡な大地と自然を未来へ!!

## 一、はじめに

十一月六日は大田原市議会議員増員選挙です。二年前までは今度も無風選挙かと多くの町民が嘆いていたのが、四年間の内で二回も選挙が立て続けになる様になりました。

編入合併という土石流に黒羽町は完全に飲み込まれた結果、今回の増員選挙となったのです。

## 二、何故土石流に抵抗できなかったのか！

何故黒羽町は編入合併という土石流に飲み込まれてしまったかその原因は、町財政の破綻にあります。

そのために町執行部は合併特例債という『アメ』に群がり、土石流に飲み込まれてしまったのです。アメとムチは表裏一体なモノです。

これからの黒羽地域を考えると極めて厳しい前途が待ち受けています。

## 三、土石流は黒羽地区の古い慣習を押し流してしまっただが、その瓦礫の痕から新しい芽をしっかりと育ていかねばなりません！

わが郷土黒羽は土石流に蹂躪されても豊饒な大地と緑豊かな大自然が残っています。更にそこから育まれて来た歴史と文化があります。そして如何なる困難にも屈しない黒羽地区の住民がいます。

いずれ黒羽地域は城を失っても必ず再生します。だがしかし銭に目が眩んだ一部の人間によって大火砕流に巻き込まれてはなりません。

豊饒な大地と緑豊かな自然を破壊されたならば黒羽地域の再生はなくなることも危惧されます。従って私たちは未来の子供たちのためにも、死守すべきモノは断固として守っていかねばなりません。

## 四、悪しき政治風土に押しつぶされることなく、明日の郷土を！

『横断歩道みみなで渡れば怖くない。』という言葉があるように黒羽地区の住民は極めて温厚で慎重すぎる傾向があります。つまり保守的、没個性的とも言われる気配も強すぎるかもしれない。

編入合併どちらかといえば吸収合併という大土石流に飲み込まれてしまったのです。もはや中途半端な方法では再生が厳しい。ましてや五十年前に回帰することは不可能です。ならば敢えて大海に船出し、新大陸を目指して荒波を掻き分けて行っても未来に繋がるのではない



### ■プロフィール

大田原高校普通科卒、中央大學理工学部卒、(有)深沢建設創業代表取締役就任、黒羽町議一年九ヶ月在職(民生教育常任委員)  
人類と自然環境との共生、地域社会再生問題に関心

だろうか。

『那須に三つの嫌われモノあり。畠に地シバリ、田にビルモ、那須のアン石』という伝承が現在の古老たちにも伝わっています。当て字の乱立ですがこのような結果にならないように今回の編入合併をして行かねばなりません。

黒羽地域の住民が誇るべき唯一の財産は豊饒な大地と緑豊かな自然です。

この豊饒な大地と緑豊かな自然をまもり、次世代に伝えて行くことが現代を生きる世代の務めです。

自然と大地に愛着と慈しみがあれば、必ず自然と大地は私たちに報いてくれます。そしてそれが次世代の子供たちが地域を再生して行くための唯一大きな財産となるでしょう。

## 五、増員選挙の意義とは！

土石流の跡地を片付け、新たな黒羽地域を再生して行くためにも極めて大事な選挙です。

地域エゴでは本当の再生は出来ません。再生していくためには、地域エゴを捨てて、大同団結を果たして黒羽地域の再生を図るために、一致協力し困難な事業を達成して行かねばなりません。

そのためにも今度の増員選挙は地域エゴ、従来からある縁故門閥、財力優先の選挙か、理念と実行力の選挙かこの二つの闘いです。それがこれからの黒羽の行末を決定して行くこととなります。

## 《補 足》

閉庁記念式典に配布された黒羽の民話の中でも岩獄丸は笹岳丸とか岩岳丸として登場しています。しかもその実態は蟹の甲羅を背負った怪獣ガメラのような化け物として表記されています。別の箇所には朝廷の女官を奪って八溝の地に逃げてきたとか。結論的に言えば平将門反乱の後数十年後に中央政府とのいさかいが発生して、将門の騒乱劇に恐怖した中央政府は徹底した弾圧と虐殺の結果、地上より岩獄丸に縁のあるものを尽く葬り去った。そのような内容であったのではないかと推定します。

昔から歴史の表舞台に登場することなく非業の最期を遂げて消えて逝った人達には憐憫の情がわく。この性格は子供の時から一貫したものです。

## 《連絡先》

・携帯 090・8894・6713 ・電話 0287・54・3944  
・ファックス 0287・54・4006